

MOMOにつき 大盛況

★7月22日のできごと

本日、MOMOは、いそがしかったよ！！

最初は日食メガネをかけて部分日食観測、太陽が三日月に見えていました。

その内、雲が多くなり太陽が見えなくなりました。

時々、雲の隙間から、三日月形の太陽が。あれ！三日月の方向が変化しましたよ。

皆さんは、見る事ができましたか？
今回は、3年後の金環食をおたのしみに！



つどいの広場♪ハーモニー♪ ベビーマッサージのひととき

★7月27日のできごと

歌を歌いながらスキンシップ。ベビーオイルの説明後、ママの手にたっぷりオイルをとり、ベビーのお肌になじませ、足→おなか→背中→の順にマッサージしていきます。

歌をうたいながら、マッサージしていくと、うれしそうなベビーたちの顔。ママも笑顔になって、「気持ちいいね！」



まちの縁側MOMO (マチノエンガワ モモ)
日々の動きがわかるよ。
まちの縁側MOMOブログ<http://86862469.at.webry.info/>



大久保康雄の風の記憶

人ひとり生きるということは…★

最近、自室の様様替え兼大掃除をした。我が家にも地デジ対応テレビ時代が到来することになり、家族で毎月お金を出し合って積み立てしている預金で居間用のテレビを買って換えたのを皮切りに、母親が自分の定期が満期になったので自室のテレビを購入するついでに、私の部屋のテレビも地デジ対応のものと買い換えてくれるという。この歳になって年老いた母親からテレビを買ってもらってどうよと思ったが、情けないけれどこの申し出は有り難かった。

私の部屋は本来なら6畳あるのだが、私の洋筆筒や母親の花嫁道具だという桐筆筒や、スチール製の本箱、CDコンボ、PCデスクなどが所狭しと並んでいる。テレビはドアを入ったすぐ右手においてあるのだが、いままでの四角いブラウン管テレビなら丁度その位置に納まっていた。しかし、地デジ対応テレビは薄い代わりに横幅があり、部屋の出入りの度に邪魔になる可能性もある…。だから部屋を大掃除がてら、地デジ対応テレビが納められるスペースを確保するために部屋の模様替えをすることにしたのである。

私は昔ひとから貰った手紙とか土産物とか、自分が書いた記事やエッセイ・コラムや小説が掲載されている情報誌や同人誌の類、以前関わったプロジェクトの書類、名刺等々を棄てられないで取ってある。だからそれが机の上と言わず下と言わず散乱しているのだ。それらのものを整理した。おかげで部屋の中がすっきりしたが、なんだか疲れてしまった。まあ、私が市民活動をするようになって10年間ぐらゐの書類を片付けたのだ。

それにしても大量のゴミの山である。人ひとり生きてゆくということは、多かれ少なかれ周りに影響を与え、与えられるばかりではなく、大量のゴミや人間的な毒や膿をまき散らしながら人と関わってゆかねばならないということでもあろう…。

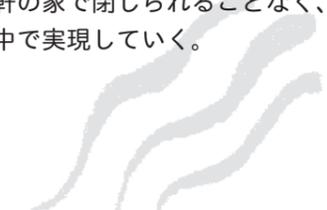


大久保康雄 (オオクボヤスオ)
まちの縁側育み隊の理事であり、紙芝居集団・風穴一座座長を務めるなど、多種多様な顔をもつチェアウオーカー

2009年
8月

今月のウイングのウイング なぜ人は「家」に帰るの？

人はなぜ自分の住むおうち家に帰るのかな？
おなかがすいたら食べなくっちゃ・・・
ひとりで食べるより家族みんなで食べるとおしゃべりがはずむ。
時には、よその家族ともいっしょに食べるって楽しいナ！
トイレでマンガを読むことだってある。
おふろにつかるとつかれがとんでいく。
何といっても「おやすみなさい」とともに自分のふとんの中にすべりこむ時
最高に家っていいナと思う。
もちろん、地震や災害に強いから安心できる。
朝、窓をあけはなつとこちいい風が吹きこんできて、目覚めをよくしてくれる。
時には風の道にねころんでいるとホッとする。
窓辺での日なたぼっこはキモチがいいナ。
窓の外の木の花がやがて実をつけているのを発見する時のオドロキ。
押入れの中にもぐりこんで遊ぶってワクワク。
しかられて押入れにぶちこまれる時はシクシク。
イヌやネコがいっしょにいるとやがて悲しみは晴れていく。
イヌやネコの世話をするって生命へのやさしさに気づかせてくれる。
おうち家って安心と健やかさと楽しさとやさしさを保ち育ててくれるところ。
安心、健やかさ、楽しさ、やさしさを実現していく住まいは、
1軒の家で閉じられることなく、まわりとのつながりの中で実現していく。



防犯のためにおうち家とおうち家が閉じあうよりも
実はお互いに関きあい、向き合った方が安心が高まっていくもの。
お日さまや風や緑をわかちあえるようなおうち家とおうち家のつながりがあると生まれる。
ひとりひとりが日々をキゲンよく生きれる場所
四季のめぐりに応じて、お祭やパーティや色々な行事等をご近所みんなでやれると
思いがけない、思い出にのこる楽しいことがくりひろげられる。
お年寄りや車椅子の人と道端で出あう時、あいさつだけでなく、
何かできることあればやってみるといいナ。
おうち家とおうち家のスキマに、道や広場等に草花を育てたりしていると
自分とまわりの人々や生き物へのやさしい共感の心がにじんできていく。

*

なぜ人は自分の住まいに帰るの？
それは、ひとりひとりの安心と健やかさを守るとともに、
まわりの家々とのつながりのある住み方を通してひとりひとり、家族、ご近所の人々も共に
楽しさややさしさを実感できる場所だから。
そのことは人が生きていく上でかけがえのない大切な暮らし方・生き方を
支え育むことにつながっている。
住まいは生き方やねん！
家とは生き方を育むところやねん！

注：本稿は、7月31日千葉大学で行われた「子ども大学」のために書いたものです。



延藤安弘 (エンドウヤスヒロ)
NPO法人まちの縁側育み隊代表理事。愛知産業大学大学院教授。錦二丁目まちの会所・世話人代表。

